

教科	国語科	学年	3 学年	標準授業時数	105 時間(週 3 時間)
----	-----	----	------	--------	----------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	・国語を通して内容や事柄を適切に表現する能力や、国語の使い方や内容や事柄を正確に理解する能力を身につけ、伝え合う力を高めること。 ・言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養い、国語の重要性に対する認識を深めつつ、国語を愛護し、尊重して、国語そのものをいっそう優れたものに向上させていこうとする意識や態度を育てること。
	具 体 目 標 (到達目標)	・学習する内容に興味・関心をもって取り組む。 ・自分の考えたことを根拠とともに言葉で表現しまとめる。 ・自分の意見を相手に分かるように伝える。 ・文章を通じて、主題、筆者の主張、登場人物の心情の変化、作者のものの見方や感じ方を捉える。 ・学習した内容を整理し、理解する。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「漢字」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「表現の技法」など、言葉の特徴や使い方に関して評価する。
		思考力、判断力、表現力	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関して評価する。
		主体的に学習に取り組む態度	国語科の学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価する。 学習内容に即して設定する観点であるため、いずれの単元にも位置づけることとする。
	評価の方法		○定期試験 ○小テスト ○課題（作文・書写作品など） ○振り返りシート ○活動観察

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書 ワーク 漢字学習ノート ファイル
	学 習 形 態		一斉学習 少人数グループ学習 個別学習
	学 習 の て び き	学 校	【授業】 先生の話をよく聞き、何が重要かを考えながら、話に集中しましょう。また、黒板に書かれたことをノートに写すだけではなく、先生の言葉や自分で考えたことをノートにメモしておくことが大切です。 【日常】 朝の読書では必ず集中して本を読みましょう。また、場面や相手に適した言葉づかいを常に意識しましょう。生活ノートの短い記録も毎日最後まで書くように意識して行えば表現力アップに大変役立ちます。
		家 庭	【予習】 教科書の本文を何度もよく読み、新しく出てきた漢字や語句を辞書で調べて内容をとらえます。漢字や語句を練習するノートは専用のものを用意しましょう。 【復習】 教材ごとに漢字や語句を確実にします。中学校では、小学校で学習したのと同数の漢字を、半分の期間である3年間で学習します。本文も何度も読み、授業を思い出しながらノートを見直しましょう。授業があった日には必ず復習しましょう。 新聞や本を読む習慣をつけ、その内容に関して自分の意見をまとめてみましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	1 4 1	ガイダンス「世界はうつくしいと」 握手 評価しながら聞く	・作者の思いを捉え、表現の特徴を生かして朗読する。 ・登場人物の置かれた状況や言動に着目し、人物像を捉える。 ・批判的に読み、評価しながら聞く。
5	3 1 4 1	論語 情報整理のレッスン 情報の信頼性 説得力のある構成を考えよう 熟語の読み方	・孔子の考え方を自分たちの生活と関連づけて考える。 ・情報の信頼性を確かめ、理解する。 ・伝えたいことを明確にして、説得力のある構成を考える。 ・熟語の構成と読み方を知る
6	3 1 4 1	作られた「物語」を超えて 思考のレッスン 具体化・抽象化 文章の種類を選んで書こう 文法への扉	・筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目し主張を捉える。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。 ・内容や目的に応じて、文章の形態を選んで書く。 ・文法についての理解を深め、表現や読解に生かす。
7	3 4 1 1	実用的な文章を読もう 俳句の可能性 俳句を味わう 和語・漢語・外来語	・文章を批判的に読み比べ、評価する。 ・描かれた情景、作者の思いを捉える。 ・和語・漢語・外来語について理解する。
8	1 1 2	言葉を選ぼう 読書を楽しむ 挨拶	・言葉の変化や世代による言葉の違いを理解する。 ・読書の意義を理解する。 ・表現に注目し、人間や社会について考える。
9	6 1 1 1	故郷 聞き上手になろう 慣用句・ことわざ・故事成語 漢字の造語力	・場面や登場人物の設定に着目し、内容を読み深める。 ・話の展開を予測しながら聞いて評価する。 ・慣用句・ことわざ・故事成語などの知識を広げる。 ・漢字の造語力について知る。
10	3 4 1 5	人工知能との未来 多角的に分析して書こう 話し合いを効果的に進める 【書写】効果的に書こう	・文章を批判的に読みながら要旨を捉える。 ・多角的に物事を分析して書く。 ・論点を整理し、展開を捉えて話し合う。 ・目的に応じて効果的に文字を書くことを理解する。
11	4 1 1 2 5	合意形成に向けて話し合おう 和歌の世界 君待つと 夏草―「おくのほそ道」から	・古文の言葉の響きを味わう。 ・和歌に表れた心情や情景を読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・古典に描かれた人の生き方や考え方を知る。
12	3 2 1 1	誰かの代わりに 情報を読み取って文章を書こう 漢字に親しむ 文法への扉	・筆者のものの見方や考え方を捉え、生き方を考える。 ・資料を読み取り、説得力のある論理展開になるように書く。 ・三年間で学んだ漢字をまとめる。 ・単語の活用、助詞・助動詞の働きについて理解する。
1	5 3 2	【書写】効果的に書こう 温かいスープ わたしを束ねないで	・3年間書写で学習したことを確かめる。 ・筆者の考える「国際性」の基本を捉える。 ・作者の思いを捉え、自分の可能性について考える。
2	5 6 2	【書写】三年間のまとめ 三年間の歩みを振り返ろう 漢字のまとめ	・これまでに学習したことを生かして作品を作る。 ・3年間の学びを振り返りながら自分の考えを深めて書く。 ・三年間で学んだ漢字を読み、使い慣れる。
3	4	学習を振り返ろう	・これまでに学習したことを振り返る。
計	105		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	社会科	学年	3 学年	標準授業時数	140 時間(週 4 時間)
----	-----	----	------	--------	----------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
		思考力、判断力、表現力	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○小テスト（単元テストなど） ○提出物（授業ノートやレポートなど） ○活動観察（グループ学習や全体交流での行動や発言など）

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		○教科書（東京書籍） ○地図帳（帝国書院） ○社会の自主学习（新学社） ○授業プリント（授業者作成） ○授業ノート（各自で用意すること）
	学 習 形 態		一斉授業を基本とし、場面に応じてグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	○一回一回の授業を大切にすること。以下の問いを意識して授業を受けましょう。 →「授業準備はできたか？／提出物の提出期限を守ることができているか？」 →「何を学ぶのか／何を考えるのか（“めあて”など）が分かっているか？」 →「友達がどんな考えを持っていて、自分の考えとどう違うのかなどに興味を持って、友達の考えを聞いたり、友達に自分の考えを伝えたりすることができているか？」 →「分からないこと（疑問など）を、先生や友達に質問することができているか？」
		家 庭	○授業の予習と復習をすること。以下の問いを意識して家庭学習をしましょう。 →「授業で何を学んだか？／何が理解できたか？」 →「授業で学んだことを、どう今後の学習や生活に生かすか？」 →「どうすれば、次の授業でもっとしっかり考え、意見を言うことができるか？」

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	12	【歴史的分野（40時間）】 ●第5章 開国と近代日本の歩み 【新政府の成立～韓国と中国】	・オリエンテーション（歴史） ・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解できる。 ・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解できる。
5	8	●第5章 開国と近代日本の歩み 【産業革命の進展～近代文化の形成】 ●第6章 二度の世界大戦と日本① 【第一次世界大戦～新しい文化と生活】	・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解できる。 ・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解できる。
6	10	●第6章 二度の世界大戦と日本② 【世界恐慌とブロック経済～戦争の終結】	・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できる。 ・近代の日本と世界を大観して、時代の特色（工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時代の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子など）を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
7	7	●第7章 現代の日本と世界 【占領下の日本～持続可能な社会に向けて】	・冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解できる。 ・高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できる。 ・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

8	3	◎平和教育プログラム ●歴史的分野の総整理	・平和について考えることができる。 ・これまでの学習内容を振り返ることができる。 ・これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
9	15	【公民的分野（100時間）】 ●第1章 現代社会と私たち 【持続可能な社会に向けて～決まりの評価と見直し】	・オリエンテーション（公民） ・現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解できる。また現代社会における文化の意義や影響についても理解できる。 ・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解できる。 ・人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解できる。 ・対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
10	15	●第2章 個人の尊重と日本国憲法 【人権の歴史と憲法～グローバル社会と人権】	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解できる。 ・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解できる。 ・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解できる。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解できる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
11	20	●第3章 現代の民主政治と社会 【政治と民主主義～地方公共団体の課題】	・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解できる。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解できる。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解できる。 ・地方自治の基本的な考え方について理解できる。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務についても理解できる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連

			について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
12	15	●第4章 私たちの暮らしと経済① 【私たちの消費生活～労働環境の変化と課題】	・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解できる。また対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任についても考えることができる。
1	15	●第4章 私たちの暮らしと経済② 【市場経済と価格の決め方～経済の持続可能性と真の豊かさ】	・市場経済の基本的な考え方について理解できる。その際、市場における価格の決め方や資源の配分について理解できる。また対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善についても考えることができる。 ・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解できる。 ・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の内容について理解できる。 ・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解できる。また財政及び租税の意義、国民の納税の義務についても理解できる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
2	15	●第5章 地球社会と私たち 【国際社会における国家～より良い地球社会を目指して】	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機関などの役割が大切であることを理解できる。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解できる。 ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解できる。 ・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。
3	5	●終章 より良い社会を目指して 【3年間の社会科を振り返って】	・社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することができる。 ・私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとすることができる。 ・3年間の学習内容を振り返ることができる。
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	数学	学年	3 年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	----	----	-----	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 数の平方根について理解し、数の概念についての理解を深める。また、目的に応じて計算したり、式を変形したりする能力を伸ばすとともに、2次方程式について理解し、用いる能力を培う。 (2) 図形の相似、円周角と中心角の関係や三平方の定理について、観察、操作や実験などの活動を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 (3) 具体的な事象を調べることを通して、関数$y = ax^2$について理解するとともに、関数関係を見出し、表現し考察する能力を伸ばす。 (4) 母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力を培う。

○評価について

評 価	観 点	数学的な知識及び技能	数の平方根、多項式と2次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 $y = ax^2$ 、標本調査などについての基礎的な概念や原理、法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		数学的な思考力、判断力、表現力	数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。
		主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。
	評価の方法		○定期試験 ○小テスト ○まとめ・振り返りシート ○活動観察

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書（学校図書）、授業プリント、まとめ・振り返りシート、タブレット
	学 習 形 態		小グループを使った授業を中心に学習を行う。
	学 習 の て び き	学 校	・授業のめあてを把握し、めあての答えとなる説明を行う（まとめ）。 ・授業で気づいたことやわかったことを具体的に説明する（ふりかえり）。 ・小グループではわかった生徒が率先して、わからない生徒に教える。 ・小グループではわからない生徒がわかる生徒に聞いたり、解答を見たりして学ぶ。
		家 庭	・授業で習った単元を中心にワークを利用して、類似の学習を進めていく。 ・毎回の小テストが回を重ねるごとに正答率をあげる予習・復習を行う。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4		1章 式の計算	・オリエンテーション(授業の受け方・家庭学習の仕方) ・(単項式)×(多項式)、(多項式)÷(単項式)を計算する。
5	22	1節 多項式の計算 ①式の乗法・除法 ②式の展開 ③乗法公式 2節 因数分解 ①因数分解 ②公式による因数分解 3節 式の利用 ①式の利用 1章のまとめの問題	・多項式を展開する。 ・乗法公式を用いて式を展開する。 ・多項式の因数、因数分解の意味を理解する。 ・公式を用いて多項式の因数分解を行う。 ・式の展開や因数分解を計算に利用して、簡単に計算する。式の計算を利用して、数の性質を証明する。
6	19	2章 平方根 1節 平方根 ①平方根 ②平方根の大小 ③無理数 2節 根号をふくむ式の計算 ①根号をふくむ式の乗法・除法 ②根号をふくむ式の加法・減法 ③平方根の利用 2章のまとめの問題	・平方根の必要性に気づき、その意味を理解する。 ・平方根の大小を比べ、不等号を使って表す。 ・有理数と無理数の意味及び数の範囲の広がりについて理解する。 ・根号を含む数の乗除に関する規則を理解し、乗除の計算をする。 ・根号を含む数の加減の計算の規則を理解し、加減の計算をする。 ・乗法公式を用いて根号を含む式の計算をする。式に根号を含む値を代入して式の値を求める。 ・身のまわりで、平方根が利用されている場面について考える。
7	20	3章 2次方程式 1節 2次方程式の解き方 ①2次方程式とその解 ②因数分解を使った解き方 ③平方根の考えを使った解き方 ④2次方程式の解の公式 2節 2次方程式の利用 ①2次方程式の利用 3章のまとめの問題	・2次方程式とその解の意味を理解する。 ・2次方程式を因数分解の考え方をういて解く。 ・2次方程式を平方根の考え方をういて解く。 ・2次方程式の解の公式を導き、それを用いて2次方程式を解く。 ・2次方程式をどの方法で解けばよいかを考える。 ・2次方程式を利用して、いろいろな問題を解決する。
8		4章 関数 $y=ax^2$	・具体的な事象の変化や対応を調べることを通して、 $y=ax^2$ について理解する。
9	15	1節 関数 $y=ax^2$ ①2乗に比例する関数 ②関数 $y=ax^2$ のグラフ ③関数 $y=ax^2$ の値の変化 ④関数 $y=ax^2$ の利用 2節 いろいろな関数 ①身のまわりの関数 4章のまとめの問題	・関数 $y=ax^2$ のグラフのかき方とその特徴を理解する。 ・具体的な事象と関連付けるなどし、表、式、グラフを相互に関連付けて関数 $y=ax^2$ の変化の割合について調べ、その特徴を見いだし表現する。 ・日常の事象の中から関数 $y=ax^2$ を見いだし、課題の解決に利用する。 ・いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解する。
10		5章 相似な図形	・相似な図形の性質や相似比について理解する。
11	23	1節 相似な図形 ①相似な図形 ②相似な図形の性質 ③三角形の相似条件 ④相似の利用 2節 平行線と相似 ①平行線と線分の比②線分の比と平行線 3節 相似と計量 ①相似な図形の面積比 ②相似な立体の表面積比と体積比 5章のまとめの問題	・三角形の相似条件を理解し、それを用いて図形の性質を証明する。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。 ・近似値や誤差、有効数字の意味について理解する。 ・平行線と線分の比の関係を利用して、線分の長さを求めたり、線分を等分したりする。 ・中点連結定理と、それを用いて図形の性質を証明する。 ・平面図形の周や面積を、相似比を利用して求める。 ・立体の表面積や体積を、相似比を利用して求める。
12	13	6章 円 1節 円周角と中心角 ①円周角の定理 ②円周角の定理の逆 2節 円周角の定理の利用 ①円周角と図形の証明 ②円周角と円の接線 6章のまとめの問題	・円周角と中心角の関係を見いだすことができる。 ・円周角の定理の逆が成り立つことを見いだす。 ・図形の性質を証明するために、円周角の定理などを活用する。 ・円周角と中心角の関係を利用して、円外の1点から円に接線を引く作図を考察し表現する。
1	17	7章 三平方の定理 1節 三平方の定理 ①三平方の定理 ②三平方の定理の逆 2節 三平方の定理の利用 ①平面図形での利用 ②空間図形での利用 7章のまとめの問題	・三平方の定理を証明し、それを利用して辺の長さを求める。 ・三平方の定理を利用して、三角形が直角三角形であるかどうかを判断する。 ・三平方の定理を用いて、平面図形や空間図形の計量をする。 ・対象を直角三角形とみなして、三平方の定理を活用する。
2	6	8章 標本調査 1節 標本調査 ①全数調査と標本調査 ②標本調査による推定 標本調査の利用 8章のまとめの問題	・全数調査と比較して、標本調査の必要性和意味を理解する。 ・標本調査における無作為抽出の必要性を理解する。 ・標本調査の簡単な例から、母集団の傾向を推定し判断する。
3	5	演習問題	・3年間の総合問題を解いて理解を深める。
計	140		

教科	理科	学年	3 学年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を次のとおり育成すること。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	・学習する内容に興味、関心をもって取り組む。 ・毎回の授業のポイントについて理解する。 ・観察、実験の用具の正しい使い方や、記録・分析ができる。 ・観察、実験の結果から、法則性を見つけ、原理を理解し、それを使って色々なことに応用することができる。 ・学習した内容についての語句、考え方を覚える。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	自然の事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけているか。
		思考力、判断力、表現力	自然の事物現象について問題を見だし見通しをもって観察実験などを行い、自然の事物・現象における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探求しているか。
		主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしているか。
	評価の方法		○定期試験 ○課題テスト（パフォーマンステストを含む） ○レポート（実験・観察レポート、課題レポート等） ○振り返りシート ○活動観察など

○学習について

学 習 方 法	使用教材		教科書（啓林館） 理科探求ノート（とうほう） 理科資料（とうほう） 確認から発展へ（学宝社）
	学習形態		・教室や理科室での一斉授業やグループ学習（実験を含む）を取り入れた形式で行う。
	学習のてびき	学 校	① 授業道具を忘れない（教科書・学習ノート・ファイル） ② 板書事項を整理してノートに書き取る。大切だと思われることはメモしておく。 ③ 観察や実験の時は内容や手順をよく理解し、協力しあっておこなう。 ④ 発問に対して積極的に挙手して発表するよう努力する。 ⑤ 授業の中でわからなかった点は必ずその時間に理解するようにしておく。それでも理解できない場合は先生に聞いてわからないままにしておかない。 ⑥ 仲間との話し合いを通して、自分の考えを深める。
		家 庭	① その日に学んだことを復習する。 ② 次に学習する教科書の本文を読んでくる。その中で疑問点をもって授業にのぞむようにする。 ③ レポートや提出物は期限を守って提出できるようにしておく。

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	23	【単元】生命の連続性(23h) 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化 力だめし	・オリエンテーション (授業の受け方、家庭学習の仕方)の理解 ・生物の成長の理解 ・生物の増え方の理解 ・親から子への特徴の伝わり方の規則性の理解 ・遺伝子の本体の理解 ・生物の進化の流れを理解し、説明できる。
5			
6	29	【単元】化学変化とイオン(29h) 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩 力だめし	・水溶液にすると電流を通す物質の理解 ・電解質の水溶液に電流を通したときの変化を説明できる。 ・水溶液中での電解質の粒子の理解 ・電池のしくみを説明できる。 ・日常生活と電池 ・酸性やアルカリ性の水溶液の性質 ・酸性やアルカリ性の正体や強さの理解 ・酸とアルカリを混ぜたときの変化を説明できる。 ・イオンで中和を説明できる。
7			
8	36	【単元】運動とエネルギー(36h) 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り 変わり 5章 エネルギー資源とその利用 力だめし	・力のつり合いの理解 ・力の合成や力の分解の理解・作図 ・物体の運動の表し方の理解や速さの計算の理解 ・運動の調べ方の理解 ・力と物体の運動の関係の理解 ・物体に力がはたらかないときの運動の理解 ・力のおよぼし合いの説明ができる。 ・仕事の能率の計算 ・エネルギーの種類と変換についての理解 ・エネルギー変換の効率と熱の伝わり方の理解 ・生活を支えるエネルギーやエネルギー利用上の課題の理解 ・エネルギーの有効利用の理解
9			
10			
11	22	【単元】宇宙を観る(22h) 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方 力だめし	・太陽のまわりを回る天体やみずから光を出す天体の理解 ・天体の1日の動きの理解 ・太陽の1年の動きと星座の移り変わりの理解 ・太陽の動きと季節の変化の理解 ・月の動きと見え方の理解 ・金星の動きと見え方の理解
12			
1	30	【単元】自然と人間(30h) 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして 力だめし	・食物をめぐる生物どうしのつながりの理解 ・生物の遺骸のゆくえの理解 ・生物の活動を通じた物質の循環の理解 ・生物の変遷と進化の理解 ・自然環境における人間や人間の生活による自然環境への影響の理解 ・自然からの恩恵と自然災害の理解 ・科学技術の発展と科学技術から受けている恩恵の理解 ・科学技術の発展で生じた課題と対策の理解
2			
3			
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	英語	学年	3 年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	----	----	-----	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。 (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。 (4) 英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

○評価について

評 価 点	観 点	知識及び技能	学んだ知識と新しく獲得する知識を深く理解し、学習や生活に活かすことができる。(言語使用の正確さ) 〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて 聞く・読む：内容を捉える技能を身に付けている 話す：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり伝え合ったりする技能を身に付けている。 書く：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、または正確に用いて書く技能を身に付けている。
		思考力・判断力・表現力	習得した知識・技能を活かして必要な情報を判断し、まとめたものを表現することができる。(言語使用の適切さ) コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、 聞く・読む：必要な情報や概要、要点を捉えている 話す：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり伝え合ったりしている。 書く：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて書いている。
		主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで学習の目標を持ち、自分の進め方で正しいと考え改善することができる。 聞く・読む：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手や書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて聞こうとしたり読もうとしたりしている。 話す：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしたり発表したりしようとしている。 書く：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて書こうとしている。

	評価の方法	○定期試験 ○単語テスト ○パフォーマンステスト (ライティング/スピーキング [発表] [やり取り]) ○授業・パフォーマンステストの振り返り
--	-------	--

○学習について

学 習 方 法	使用教材		ONE WORLD English Course 3 教育出版 エイゴラボ3 正進社 さくさく Writing 3 浜島書店
	学習形態		一斉・ペア・グループ
	学習の てびき	学 校	・準備物をそろえて授業に臨み、先生や友達の話や活動などに集中しましょう。 ・英語を言うときは、お腹から声を出しはっきり聞こえる声で発声しましょう。 ・唇や舌の形に注意して、英語らしい音になるようにしましょう。 ・間違いをおそれず、積極的に発言・質問をしましょう。 ・言語活動では、積極的に英語を使い先生や友達に自分の考えを話しましょう。 ・ファイルを必ず用意し、配布されたハンドアウトはすべて整理、保存しましょう。
		家 庭	・家庭学習として、毎日30分は教科書を読んだり、英文を音読筆写ノートに書いたりしましょう。本文は暗誦できるまで練習しましょう。 ・テレビやラジオの英語番組を視聴し、英語力をつけましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	10	Review Lesson Washoku, - or Japanese Cuisine	○2年生までで学んだ内容の復習をする ○和食についての知識をより深めるために、登場人物の体験を聞いて、要点を捉えることができる。
5	14	Lesson 1 Aya Visits Canada	○アヤのカナダでの出来事や経験などを聞いて、要点を捉えたり、教えてもらった料理方法をまとめたりすることができる。
6	14	Lesson 2 The Eagles in Hokkaido	○北海道のワシに関わる読み、分かったことや考えなどを整理し述べ合うことができる。
7	14	Lesson 3 News and Ads	○ニュースやコマーシャルの放送を聞き、自分が知り得たことを他の人に知ってもらうためにレポーターとして伝えることができる。
8	6	Project 1 Reading 1 Audrey Hepburn	○商品を理解してもらうために、商品の特徴について整理し、聞き手に分かりやすく話すことができる。
9	14	Lesson 4 Sports Legends	○高梨沙羅選手など有名人についての説明を聞いて、レポートや新聞記事に事実や感想などを書くことができる。

10	14	Lesson 5 Being True to Ourselves	○ケンタの進学についての悩みを理解し、ケンタにアドバイスをしたり、スピーチを聞き話し手が伝えたいことを捉え、それに対して自分の意見を書いたりすることができる。
11	14	Lesson 6 Why do We Have to Work?	○ディスカッションにおいて、相手の意見の聞き、自分の考えを整理しながら自分の意見を述べることができる。
12	10	Project 2 Lesson 7 Debating Doggy Bags	○相手に自分のことをより理解してもらうために、自分が伝えたいことを整理し、中学生生活をテーマにしたまとまりのあるスピーチをしたり、話し手のことを配慮しながら質問したり感想を述べたりすることができる。
1	10	Project 3 Reading 2 My Prayer for Peace	○ディベートで立論スピーチを行うために、給食と弁当のどちらがよいかという論題について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手の意見に対して質問したり反論したりすることができる。
2	10	Further Reading 1 Painting the Fence Further Reading 2 Counting on Katherine Johnson Further Reading 3 Free The Children	○主人公の気持ちの流れを味わうために、物語 (Painting the Fence) の概要を捉えることができる。 ○文章の大まかな流れを時間軸に沿って書きまとめるために、Katherin Johnson について書かれた文章の概要を捉えることができる。 ○文章の大まかな流れを時間軸に沿って書きまとめるために、Craig Keilburger について書かれた文章の概要を捉え、感じたことを他者に伝えることができる。
3	10	Further Reading 4 John Mung	○文章の大まかな流れを時間軸に沿って書きまとめるために、John Mung について書かれた文章の概要を捉え、彼の偉業から学んだことを他者に伝えることができる。
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	音楽	学年	3 学年	標準授業時数	35 時間(週 1 時間)
----	----	----	------	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性 について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
		思考力、判断力、表現力	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	評価の方法		活動観察、定期試験、実技試験（歌唱、アルトリコーダー）、提出物

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		中学生の音楽 2・3 の下（教育芸術社）、中学生の器楽（教育芸術社）、資料集（正進社）
	学 習 形 態		音楽室での一斉授業を基本とし、場面に応じてグループ学習を行う。
	学 習 の て び き	学 校	・ 授業の準備を確実にし、落ち着いて授業開始を待つ。 ・ 課題や目標を意識し、集中して授業に取り組む。 ・ 歌唱、アルトリコーダーの練習は、周りの音を聴きながら、丁寧に取り組む。 ・ 提出物は、指示された時に、授業時間内に提出する。 ・ 学習プリントは、必ずファイルに保管する。 ・ 楽器を適切に扱う。
		家 庭	・ いろいろなジャンルの音楽に親しもう。 ・ アルトリコーダーの練習に取り組もう。（実技試験の前、長期休業中など）

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	3	●日本の歌	○歌唱 「花」 ・広く親しまれている日本の歌を味わい、表現します。歌詞の意味や背景にある情景や心情に関心を持ち自分のイメージを生かして表現します。
5	3	●世界の歌に親しむ	○歌唱「帰れソレントへ」「Let it be」 ・曲想を生かした表情で歌えるように練習します。
6	3	●リコーダーアンサンブル	◇器楽「エーデルワイス」「星の世界」 ・他のパートをよく聴きながら美しいハーモニーを作ることができるよう表現を工夫します。
7	3	●西洋音楽史	□鑑賞 「ブルタバ」等 ・西洋音楽史の流れと時代背景を理解し、各時代の音楽の特徴を感じ取りながら名曲に親しみます。
8			
9	5	●合唱の喜び	○歌唱「合唱コンクールの曲」 ・混声3部・4部合唱の響きの美しさ、表現力を身につけます。
10	4	●日本音楽史	□鑑賞 「能」等 ・日本音楽史の流れと時代背景を理解し、各時代の音楽の特徴を感じ取りながら名曲に親しみます。
11	3	●日本の歌に親しむ	○歌唱「早春賦」 ・情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌うことができます。
12	2	●作曲	△創作「自分の曲」 ・カノン進行を生かし、和音の動きに合わせて旋律をつくります。
1	3		
2	3	●曲の良さをプレゼン	□鑑賞「自分の好きな曲」 ・自分の好きな曲の特徴や背景を関わらせてプレゼンすることを通してより効果的に伝わるように工夫します。
3	2	●合唱の喜び	○歌唱「卒業式の歌」 3年間過ごした仲間とともに中学校生活最後の合唱に取り組み、卒業式を思い出に残る素晴らしいものにします。
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	美術	学年	3 年	標準授業時数	3 5 時間(週 1 時間)
----	----	----	-----	--------	----------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようになる。 (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。 (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。
		思考力、判断力、表現力	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○作品、提出物 ○活動観察

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書(光村図書) 感じる表す美術(浜島書店)
	学 習 形 態		一斉授業、少人数グループなど、活動のねらいに応じた形態をとる
	学 習 の て び き	学 校	・授業の準備を確実に行う。 ・仲間も共に学習していることの意識を高く持つ。 ・授業の流れを把握し、準備や後かたづけまで責任をもち、協力して行う。 ・課題や目標を意識し、授業に時間いっぱい精一杯取り組む。 ・安全に行えるように気をつける。 ・提出物は期限を意識し、確実に提出する。
		家 庭	・授業や課題に必要な物を準備する。 ・美術館などで開催される展示などに関心をもち、本物の作品に触れる機会を見いだす。 ・身の回りの”美術”に関心をもち、

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	3	・オリエンテーション ・(鑑)北斎からゴッホへ ・印象派 ・ジャポニスム ・浮世絵	・美術での活動や学習に見通しを立てる。 ・日本や西洋の美術作品について、それぞれのよさや美しさを感じ取る。 ・日本の美術が西洋の美術に与えた影響について考え、美術文化への見方や感じ方を深める。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方を広げる。
5 ～ 8	9	・様々な自画像の鑑賞から模写へ ・印象派	・さまざまな自画像に関心を持ち、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方を広げる。 ・自画像など自分をあらわした作品に関心を持ち、今の自分や将来の自分を深く見つめ感じ取ったことや考えたことをもとに主題を生み出す。 ・主題をもとに、形や色、構図などの構想を練る。 ・形や色、構図などを工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 ・人体の造形的な表現形式などを理解する。
7	1	・メッセージを伝える (夏休みの課題・ポスター)	・メッセージを広く伝えるデザインに関心を持ち、メッセージを伝える目的や伝える相手、内容や社会との関わりなどから主題を生み出す。 ・主題をもとに、作品形態や構成、配色やコピーなどの構想を練る。 ・形や色、構成などを工夫して制作する。
9	1	・(鑑)文化祭展示鑑賞	・作者の創造的な表現の工夫を感じ取り、美意識を高め、幅広く味わう。
9	2	・近代の美術史	・1800～2000年代の美術作品の変容をとらえ、その時代の人々が、どのようなものに美しさを感じ、求めていたのかを考え、味わう。
10 ～ 11	3	・ポストカード制作 かわいいを届けよう	・現代の日本の美術作品を鑑賞し、自分なりの“かわいい”を見つけ、分析し、表現する。 ・完成作品の相互鑑賞を通して、お互いの表現のよさを感じ合う。
11 ～ 12	8	・水墨画	・墨の多様な表現を体験することにより、日本の伝統的な水墨画に触れ、自分なりに表現を工夫し、表現する。 ・相互鑑賞を行い、感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えや表現に関心を持ち、作品の見方を広げる。
1 ～ 3	8	・あかりがつくる空間	・さまざまなあかりのデザインに関心をもち、使う人や設置する場所などの条件をもとに主題を生み出す。 ・主題をもとに、材料による光の透け方や漏れ方などを考えながら構想を練る。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	保健体育(男子)	学年	3 年	標準授業時間数	105時間(週 3時間)
----	----------	----	-----	---------	--------------

目 標	教科目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評 価 点	観 点	運動についての知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに基本的な知識を身につけている。
		運動についての思考・判断・表現	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、健康についての課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
	点	主体的に学習に向かう態度	運動における経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
		評価の方法	活動観察(活動の様子)・授業記録の分析(学習プリント・自己評価カード)実技テスト・定期テスト

学 習 方 法	使用教材	教科書(大修館書店) 保健体育学習ノート(大修館書店) 実技資料(大修館書店)	
	学習形態	グラウンド・体育館・格技場や教室での一斉授業やグループ学習を取り入れた形式で行う。	
	学習の手引き	学校	・各先生の指示をよく聞いて、自分の課題や目標を考え、教え合いをしながら、みんなと協力して学習に取り組みましょう。競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけていきましょう。 ・健康・安全に留意して、進んで学習に取り組みましょう。 ・心身の健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組みましょう。 ・先生の説明をよく聞き、健康・安全の意義を理解し、知識を身につけていきましょう。
		家庭	・教科書やプリントなどを中心に、基本的な技能やルールなどについて積極的に予習・復習をしましょう。 ・保健では教科書を読んでおくなどの予習をしておきましょう。 ・保健体育ノートなどで復習をしましょう。 ・プリントやレポートなどに積極的に取り組み、提出しましょう。 ・長期の休みなどには進んで体力づくりに取り組みましょう。

学習内容

月	時数	単 元 名 ・ 項 目	学 習 内 容
4	8	・体づくり運動 集団行動 体ほぐしの運動 体力を高める運動・ラジオ体操 体の柔らかさや巧みな動きを高めるため運動	・オリエンテーション(授業の受け方、家庭学習の仕方) ・「体ほぐしの運動」いろいろな運動を友達と楽しく行い、心や体の状態に気づいたり、調子を整える。 ・「体力を高める運動」健康に生活するための体力を高める。
5	5	力強い動きを高めるための運動 動きを持続する能力を高めるための運動 ・新体力テスト	・ラジオ体操やストレッチなどの効果について知る。 ・体育大会の練習を通して集団で行動することの意味を理解し、行動する力を身につける。 ・新体力テストを行い、自己の体力の現状と課題について知り、今後の運動実践に活かしていく。
6	10	・球技(バレーボール)	・基本的な技能(パス、サーブ、スパイク)を身につけ、役割に応じたボール操作によって空いた場所をめぐる攻防の展開及び基本的なルールについて知る。
7	8	・水泳	・各種目の技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができるよう練習する。 ・水泳の安全・事故防止に関する心得を学習する。
8	8	保健分野 感染症と病原体(1) 感染症と体の抵抗力(1) 感染症の予防(1) 性感染症とその予防(1) エイズとその予防(1) 保健機関とその利用(1) 医療機関とその利用(1) 医薬品の正しい使い方(1)	感染症の予防と健康を守る社会の取り組み ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
9	10	・球技(バドミントン)	・基本的な技能(サービス、ステップ、インパクト)を上達させ、用具の操作と仲間と連携した動きによって攻防を展開しゲームを行う。ルールについて知る。
10	8	・器械運動(マット運動)	・マットを使って、今自分にできる技を確認し、その技がより良くなるように練習する。また、新しい技に挑戦し、その技能を高める。
11	8	保健分野 環境の変化への体の適応(1) 気象情報の適切な利用(1) 快適で能率の良い環境(1) 室内の空気の汚染と換気(1) 衛生的な飲料水の供給(1) し尿とごみの処理(1) 災害と環境(1) 私たちの生活と環境問題(1)	環境の健康への影響 ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
12	10	・球技(サッカー)	・基本的な技能(パス、ドリブル、シュート)を身につけ、ボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開しゲームを行う。基本的なルールについて知る。
1	7	・陸上競技(長距離走)	・自己に適したペースを維持して、一定の時間や距離を走る。
2	3	・体育理論	・文化としてのスポーツについて学ぶ。
3	10	・球技(バスケットボール)	・基本的な技能(パス、ドリブル、シュート)を身につけ、ボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開しゲームを行う。基本的なルールについて知る。
4	10	・球技(ソフトボール)	・キャッチボール、バッティングなどの技能を習得し、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開し、ゲームを楽しむ。
計	105		

※内容が前後する場合があります

教科	保健体育(女子)	学年	3年	標準授業時間数	105時間(週 3 時間)
----	----------	----	----	---------	---------------

目 標	教科目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	・運動の特性や個人の生活における健康・安全に関心を持ち、仲間と協力しながら、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・運動の技能習得や個人生活における健康・安全について、自己の課題を見だし、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表現することができる。 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 ・運動の歴史や特性、運動の合理的な実践に関する具体的な事項、個人生活における健康、安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

評 価	観 点	運動についての知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに基本的な知識を身につけている。
		運動についての思考・判断・表現	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、健康についての課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
		主体的に学習に向かう態度	運動における経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
	評価の方法		活動観察(活動の様子)・授業記録の分析(学習プリント・自己評価カード)実技テスト・定期テスト

学 習 方 法	使用教材	教科書(大修館書店) 保健体育学習ノート(大修館書店) 実技資料(大修館書店)	
	学習形態	グラウンド・体育館・格技場・プール・多目的ホールや教室での一斉授業やグループ学習を取り入れた形式で行う。	
	学習の手引き	学校	・各先生の指示をよく聞き、自分の課題や目標を考え、進んで学習に取り組みましょう。 ・健康・安全に留意して、進んで学習に取り組みましょう。 ・教え合いをしながら、みんなと協力して学習に取り組みましょう。 ・競争や共同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけていきましょう。 ・心身の健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組みましょう。 ・先生の説明をよく聞き、健康・安全の意義を理解し、知識を身につけていきましょう。
		家庭	・教科書やプリントなどを中心に、基本的な技能やルールなどについて積極的に予習・復習をしましょう。 ・保健では教科書や保健体育ノートを読んで、予習・復習をしておきましょう。 ・プリントやレポートなどに積極的に取り組み、提出しましょう。 ・体力作りは積み重ねが大切です。長期の休みや普段の生活の中で、進んで体力作りに取り組みましょう。

学習内容

月	時数	単元名・項目	学習内容
4	8	・体づくり運動 集団行動 体ほぐしの運動 体力を高める運動・ラジオ体操 体の柔らかさや巧みな動きを高めるため運動	・オリエンテーション(授業の受け方、家庭学習の仕方) ・「体ほぐしの運動」いろいろな運動を友達と楽しく行い、心や体の状態に気づき、調子を整える。 ・「体力を高める運動」健康に生活するための体力を高める。
5	5	力強い動きを高めるための運動 動きを持続する能力を高めるための運動 ・新体力テスト	・ラジオ体操やストレッチなどの効果について知る。 ・体育大会の練習を通して集団で行動することの意味を理解し、行動する力を身につける。 ・新体力テストを行い、自己の体力の現状と課題について知り、今後の運動実践に活かしていく。
6	8	・器械運動(平均台)	・基本的な技能を滑らかにできるように練習し、発展技に挑戦したり、技を組み合わせ演技の発表および鑑賞する。
7	8	・水泳	・各種目の技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができるよう練習する。 ・水泳の安全・事故防止に関する心得を学習する。
8	8	・保健分野 感染症と病原体(1) 感染症と体の抵抗力(1) 感染症の予防(1) 性感染症とその予防(1) エイズとその予防(1) 保健機関とその利用(1) 医療機関とその利用(1) 医薬品の正しい使い方(1)	感染症の予防と健康を守る社会の取り組み ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
9	8	・球技(卓球)	・基本的な技能(サーブ、レシーブ、スマッシュ)を上達させ、ボール操作で攻防を展開しゲームを行う。ルールについて知る。
10	10	・球技(バレーボール)	・基本的な技能(サーブ、レシーブ、パス、スパイク)を上達させ、ボール操作と仲間と連携した動きによって攻防を展開しゲームを行う。ルールについて知る。
11	12	・球技(バスケットボール)	・基本的な技能(パス、ドリブル、シュート)を向上させ、安定したボール操作と仲間と連携した動きで空間を作り攻防を展開しゲームを行う。基本的なルールについて知る。
12	8	・保健分野 環境の変化への体の適切(1) 気象情報の適切な利用(1) 快適で能率の良い環境(1) 室内の空気の汚染と換気(1) 衛生的な飲料水の供給(1) し尿とごみの処理(1) 災害と環境(1) 私たちの生活と環境問題(1)	環境の健康への影響 ※保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
1	3	・体育理論	・文化としてのスポーツについて学ぶ。
2	7	・陸上競技(長距離走)	・自己に適したペースを維持して、一定の時間や距離を走る。
3	10	・球技(ソフトボール)	・基本的な技能(スローイング、キャッチング、バッティング)を上達させ、ボールやバットの操作と仲間と連携した動きでゲームを行う。
	10	・球技(バドミントン)	・基本的な技能(サービス、ステップ、インパクト)を上達させ、用具の操作と仲間と連携した動きによって攻防を展開しゲームを行う。ルールについて知る。
計	105		

※内容が前後する場合があります

教科	技術	学年	3 年	標準授業時数	18 時間(週 0.5 時間)
----	----	----	-----	--------	-----------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについての理解を深める。 (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	○ 材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術に関する科学的な原理・法則、技術の基礎的なしくみを理解し、それらに関わる技能を身に付ける。 ○ 生活や社会における問題を見だし、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などの多面的・多角的な視点から、長所・短所の折り合いをつけるという技術的な見方・考え方ができる。 ○ 技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会における技術に関わる問題を解決することができる。 ○ よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力と、社会の発展に向けて技術を工夫し創造しようとする態度を身に付ける。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	✓ 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付けているか。 ✓ 技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているか。
		思考力、判断力、表現力	✓ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定、解決策を構想できるか。 ✓ 解決策を製作図等に表現し、試作等で具体化できるか。 ✓ 実践を評価・改善し、課題を解決できるか。
		主体的に学習に取り組む態度	✓ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度が身についているか。
	評価の方法		○定期試験 ○提出物(レポート等) ○活動観察 ○実技試験 ○作品等

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		・教科書(開隆堂) …3年間使用 ・学習ノート(新学社) …3年間使用 ・授業で配布するプリント
	学 習 形 態		教室や実習室(木工室や金工室、コンピュータ教室)での一斉授業やグループ活動(実技を含む)を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	① 授業道具(教科書、学習ノート、プリントなど)を忘れない。 ② 板書や必要事項を整理してノートを取り、その他大切だと思えることをメモする。 ③ 作業内容や手順について理解する。分からないところがあれば積極的に質問する。
		家 庭	① 授業で学習したことを復習する。 ② 疑問点をもって授業に臨む。 ③ 提出物の期限は必ず守る。

○学習内容…【内容D 情報の技術】

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	2	D-③ 情報とコンピュータ ・コンピュータの構成 ・コンピュータの機能と装置 ・コンピュータを使って機器を自動で動かすかすしくみ ・コンピュータによる処理のしくみ ・プログラムの構造と表現 ・情報のデジタル化 ・デジタル情報の特徴	○生活や社会にある情報の技術から、以下の項目について理解する ・ハードウェア ・ソフトウェア ・コンピュータの主な機能 ・計測・制御システム ・プログラム ・デジタルとアナログ ・情報セキュリティ ・情報モラル ・知的財産
5	2	D-④ 情報セキュリティと情報モラル ・情報セキュリティ ・情報モラル ・知的財産の保護と活用	
6	2	D-⑤ 計測・制御による問題解決（プログラムの作成Ⅰ）	○『順次処理型』・『条件分岐型』・『繰り返し型』を理解し、組み合わせて使用することで、計測・制御によって課題解決を行うためのプログラムを作成する
7	1		
9	1		
	1	前期期末試験	○テストに向けて、語句などの確認及び復習を進める
10	2	D-⑥ 双方向性のあるコンテンツによる問題解決（プログラムの作成Ⅱ）	○『順次処理型』・『条件分岐型』・『繰り返し型』を理解し、組み合わせて使用することで、双方向性のあるコンテンツによって課題解決を行うためのプログラムを作成する
11	2		
12	2		
1	1	後期期末試験	○テストに向けて、語句などの確認及び復習を進める
	1	D-⑦ これからの情報の技術 ・情報の技術の学習をふり返ろう ・情報の技術と私たちの未来	○情報の技術の学習の振り返りを行い、今後の生活等に活かしていく
2	1	【3年間の技術の学習のまとめ】	○技術科の学習の振り返りを行い、今後の生活等に活かしていく
計	18		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	家庭	学年	3年	標準授業時数	18時間(週0.5時間)
----	----	----	----	--------	--------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	○金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について理解する。 ○環境に配慮した消費生活(持続可能な社会)を送るために自分たちができることを考える。 ○幼児発達と生活、幼児の遊びの意義について基礎的な理解ができる。 ○幼児や高齢者との関わり方について理解し、よりよい生活実現に向けて生活を工夫しようとする。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。
		思考力、判断力、表現力	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
		主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○活動観察 ○提出物(ワークノート、授業プリント、レポート等)

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書 ワークノート ワークシート
	学 習 形 態		1クラスの半分の人数で、教室での一斉授業や、グループ学習(課題に対する意見交流、実習等)を取り入れた形式で行います。
	学 習 の て び き	学 校	授業では①興味を持って授業に参加しましょう。 ②積極的に発言・質問をしましょう。 ③積極的に実験、実習に取り組みましょう。 ④プリントのまとめをきちんとしましょう。
		家 庭	◎家庭の仕事を行うことが、家庭科の一番の実践学習になります。意欲的に家庭の仕事を行いましょう。 ◎新聞・ニュース・衣生活、住生活に関する番組なども活用し、最新の情報を得て自分の生活に生かしていくようにしましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	2	【家庭生活と消費】 ① 消費生活のしくみ ② 家庭生活における収入と支出	・消費生活のしくみについて話し合う ・家庭における収入支出のバランス
5	2	【収入・支払いと生活情報】 ① いろいろな購入方法	・店舗販売と無店舗販売
6	2	② 購入前に知っておくこと ③ いろいろな支払方法 ④ 情報を活用した上手な購入	・販売方法や支払い方法について知る。 ・商品の選択、購入、活用する方法について考える。
7	2	【持続可能な社会】 ① 消費行動が社会に与える影響 ② 消費行動が環境に与える影響	・よりよい消費生活について考える。 ・環境に配慮した生活について考える。
8	1	【幼児の生活と家族】 ① 幼児の頃と自分	・自分自身の幼いころを振り返る。
9	2	【消費者被害と消費者の自立】 ① 消費者被害 ② 消費者の権利と責任	・消費者トラブルを解決する方法を考える。 ・消費者の権利と責任について考える。
10	2	【幼児の生活と家族】 ② 幼児の体の発達 ③ 幼児の心の発達	・幼児の体の発達の特徴について考える。 ・幼児の心の発達の特徴について考える。
11	2	④ 発達にとってのおとなの役割 ⑤ 遊びが必要なわけ	・幼児にとっての遊びの意義について考える。
12	1	⑥ 遊びを支える環境	・幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。
1	1	【幼児との関わり】	・子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。
2	1	【家庭生活と地域とのかかわり】	・介護など高齢者との関わり方について理解しする。
3			
計	18		

【注意】内容が前後することもあります。